



 **AUGUST**

オーガストオフィシャルハンドブック  
2007年春号

# FORTUNE ARTERIAL

—フォーチュン アテリアル—

# P R E F A C E — ま え が き

こんにちは。オーガスト／ARIAです。  
初めて「オフィシャルハンドブック」をお手に取って頂いた方もいらっしゃると思います。はじめまして。今後もどうぞよろしく申し上げます。

この度は、オーガストオフィシャルハンドブックをお手にとって頂き、ありがとうございました。

2006年12月にARIAよりPS2版『夜明け前より瑠璃色な』を発売し、今年の3月にはそのサウンドトラック『Terra Passport』を発売致しました。

『下弦の月』や『brilliant azure』をはじめとするPS2版の新規BGM／ヴォーカルを網羅し、ヒロインを演じていただいた声優さん8人による合唱曲『未来パレット』などボリュームも盛りだくさんのCDとなっております。

お買い上げ頂いた皆様、ありがとうございました。まだの方も、よろしければ是非お聴き下さい。(OHPにて、何曲か試聴できますのでご利用下さい)

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、オフィシャルハンドブックをお楽しみ下さい。

2007年春 オーガスト／ARIA 拝

## CONTENTS

- 3 ..... 『夜明け前より瑠璃色な』ショートストーリー  
『マインド・アトラクション』
- 7 ..... オーガスト第6作  
『FORTUNE ARTERIAL』 CHARACTER FILE
- 14 ..... スタッフ対談
- 15 ..... あとがき



# 夜明け前より瑠璃色な

瑠璃色シヨートストリー〜

## マインド・アトラクション

安西秀明

―好きな人につきあえる。それは想像していたよりもずっと幸せなことだった。けど、二人きりでいられる時間はほとんどない。姉さんの仕事が忙しいから。まだ家族公認の恋人というわけじゃないから。それでも、今は二人きりだ。短い時間だけれど、一緒に楽しめる時間だった。

☆☆☆

うへへへ、ようこそ『デビルドロップ』へ。目の前の塔の外側に椅子がついてるだろ？ それに座ったが最後、地上50メートルまでじゃわと連れてかれるのさ。あとは地獄へ急降下だ！

※12才以下のお子様はお乗りになれません。

☆☆☆

―と、看板に書いてあったのを思い出す。

マスコットキャラの悪魔が親指を立てて笑っている絵が描かれていた。

要は50メートルから落下するだけのアトラクションだ。だが、乗ってみるとこれが非常に怖い。

現在地上20メートル。  
まだまだ上昇していく。

隣に座る姉さんの髪がふわふわと風に揺れている。日射しに照らされた姉さんは、とても輝いて見えた。

「ほらほら、あそこに麻衣ちゃんたちが」  
地上に向けて、嬉しそうに手を振る。

「ほ、ほんとだ」

フィーナや菜月やミアがだんだん小さくなっていく。映像アトラクションに向かっていくメンバーだ。

俺と姉さんだけが、絶叫マシンに乗るために別行動をとっていた。

「……もしかして無理につきあわせちゃったかしら？」

心配そつに俺を見つめながら、姉さんが言った。

「そんなことはないよ」

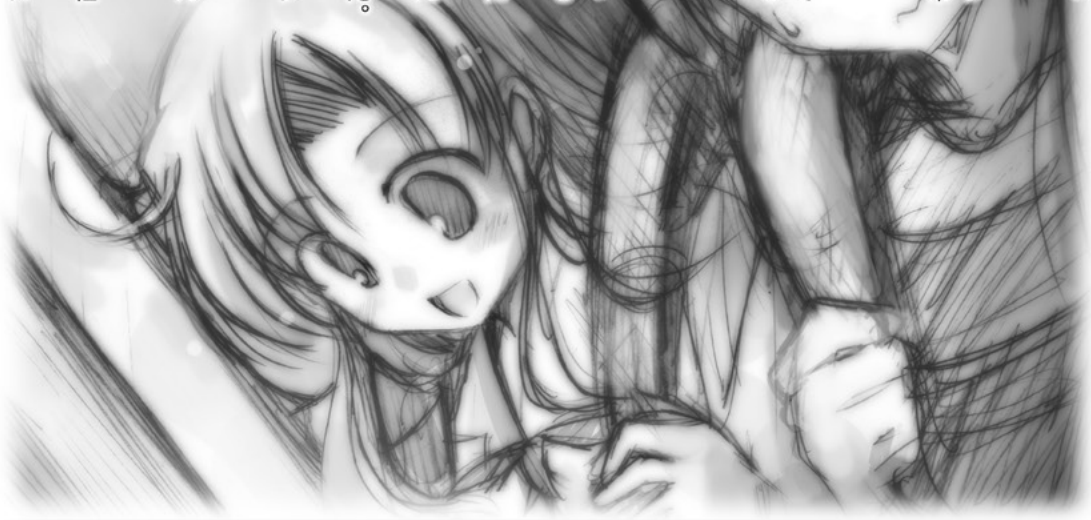
姉さんと二人きりになれるなら、絶叫マシンくらいなんでもない。

デートみたいで、嬉しくなる。

「あ、あのもう限界です、ま、まだ上がるんですか……」

近くの女性が恐怖に震える声を絞ります。彼氏と思われる男性が「大丈夫だよ」と女性を落ち着かせている。

一度でいいから、あんな風に姉さんに頼られ



てみたい。姉さんをちらりと見ると、余裕のある笑みを返されてしまった。

「地上40メートル」

と書かれた小さな鉄の看板が視界の上から下へと消えていく。

身体が勝手に震えた。

「達哉くん、大丈夫？」

姉さんに心配されてしまった。これでは立場が逆じゃないか。

俺だって男なんだし、こういう時に頼れるところを見せたい。

「……全然、大丈夫だよ。姉さんこそだいじょ」

突然、落下。

「うふうわあああああ

—————っ！」

情けない悲鳴が遊園地に響いた。

白い木製のベンチに姉さんと並んで座っていた。未だに体が浮いているような気がする。

「……情けないよな」

「そんなことないわ。絶叫するための乗り物なんだもの」

「ただ姉さんは悲鳴を上げなかったじゃないか、と思う。」

「そろそろ、みんなと合流しましょうか」  
姉さんはスカートの裾を押さえて立ち上がる。さっきの悲鳴のことを姉さんはどう思ったんだろう。

度胸がないと思ったかもしれない。頼りにならないと感じたかもしれない。

そんな風に思われたままでいたくなかった。

「集合まで、もうちよつと時間あるよね」

姉さんは俺の声に振り返る。

「もうひとつ乗ってみない？」

「……絶叫系？」

俺が頷くと、姉さんは嬉しそうに微笑んだ。

「……それがいいよ」

「……それがいいよ」

ジェットコースターは大きな音を立てて鉄のレールを登っていく。

「うふふ、ときどきしてきたわ」

姉さんは上機嫌だ。怖がっている様子はまったくない。負けるわけにはいかない、と思う。

大丈夫だ、さっきのデビルドロップよりはましだ。

ジェットコースターは最初の急降下だけ耐えれば、後は問題ないはずだ。

さっきみたいな悲鳴は絶対にはげないぞ。俺はそう心に決めて、安全バーをぎゅっと握りなおした。

後は、ジェットコースターが最高所に辿りつくのを待つだけだ。

「……どうしたの？」

姉さんが不思議そうに俺を見ていた。

「何が？」

「すごく真剣な顔してるから」

「それは……」

悲鳴を上げないように集中しているなんて、そんなこと格好悪くて言えない。

「あのね、達哉くん」

姉さんが顔の前に人差し指を「びっ」と立てる。

「こういうときは悪い方向に考えちゃダメなの」

姉さんが言い聞かせるように言う。俺がナーバスになっていると思っただろうか。

「大切なのは、これから始まる怖いことを楽しもうとすることよ」

姉さんはにっこりと微笑んだ。

「わかった？」

俺は頷く。

「……それから、もっと楽める方法があるのよ」

「へえ、どんな？」

「万歳をするの」

「瞬間、姉さんが言った意味がわからなかった。」

「ほらこうやって。万歳〜」

姉さんは安全バーを離して両手を上げた。

もうすぐジェットコースターは落下する。

変な汗が全身から噴き出し、頭では危険信号が鳴り響いている。しかしここで負けるわけにはいかない、と思った。

俺は万歳をした。

その瞬間、ジェットコースターが風になった。

# 夜明け前の溜壘色な

Copyright © 2010, Shueisha Inc. All rights reserved.  
A full-page illustration by the author of the original work is included.  
The full name and use of the character's name are the property of the author.  
The name used for the original work is the property of the author.

白い木製のベンチに姉さんと並んで座っている。

頭の中が真っ白だった。身体を動かす気にもなれない。

姉さんが俺の頭を撫でている。

「悲鳴なんて別に恥ずかしくないのに」

姉さんは、なぜ俺が落ち込んでいるのか分からないようだった。

頼られないばかりか、逆に慰められている。

その現状が俺の心に追い討ちをかけていた。

「ね、みんなと合流して、楽しみましょう？」

姉さんが笑顔で俺を覗き込む。

気を使わせてしまったのかもしれない。さっさと気持ちを切り替えなくては。

今日は姉さんの貴重な休日なのだから。

「そうだよな。他にも乗り物はいっぱいあるんだし」

「うんうん、ここからが本番よね」

——突然、電子音が鳴った。

姉さんの携帯の呼び出し音だった。

「……はい、穂積です」

姉さんは仕事用の声で、電話の相手と話す。

俺は白いベンチに座ったまま遊園地を眺めていた。子供連れの家族が楽しそうに目の前を通り過ぎていく。

電話を終えた姉さんが、俺を名前を呼ぶ。

そして、これから仕事に向かわなくてはいい

ない、と言った。姉さんは微笑んでいた。

それは、とても寂しそうな微笑みだった。

どこかで物音がした気がする。

目をあけると、天井が見えた。リビングの天井だった。どうやらソファで眠ってしまったらしい。

姉さんが帰ってくるのを待っているうちに、寝てしまったのか。時計を見ると十二時を過ぎていた。

俺はソファに座りなおそうと体を起こした。

「……だめよ、ちゃんと自分の部屋で寝ないと」

いつの間にかリビングの入り口に姉さんが立っていた。

「おかえりなさい」

「ただいま、もしかして待っててくれたの？」

俺は頷いた。

「もう、無理しないでいいのに」

そう言いながらも、姉さんは嬉しそうだった。

「無理なんかしてないよ、寝ちゃってたし」

姉さんは、ゆらゆら揺れながら俺の隣にぼふり、と座る。お酒の香りがした。

「飲んできたの？」

「待っててくれると思わなかったから。ごめんなさいね」

「俺が勝手にしてたことだし、気にしないで」

「……それと、ごめんなさい」

「なんで二回も謝るのさ」

「これはね、途中でいなくなっちゃった分」

——遊園地のごとは、仕事なんだし仕方ないよ。

そう言って、さっさと流せるはずの会話だった。

5



# 夜明け前の溜壘色な

Copyright © 2013, Shueisha Inc. All rights reserved.  
A path before the end of the world. The last moment of the world. The last moment of the world. The last moment of the world.

でもそうしなかった。

姉さんが、とても申し訳なさそうな顔をしていたから。

まるで自分を責めているような顔だったから。「せつかく、久しぶりにみんんで出かけられたのに……」

姉さんは家族との時間を大切にする人だ。家族の団欒に水をさしてしまったことを、悔やんでいるのだと思う。

「謝らなくていいよ」

普通なら、姉さんほど罪悪感を持ったりしないだろう。でも、姉さんは傷ついてしまっている。

姉さんを癒してあげたい、と思った。だけど、どうすればいいのだろう。例えば、俺が辛いときに姉さんは何をしてくれたのか。

甘えさせてくれた気がする。

姉さんも誰かに甘えられたら、楽になれるのかも知れない。そう考えて、俺は姉さんの肩を抱えるようにそっと手を伸ばした。

「た、達哉くん……?」

「いいから」

姉さんは少し驚いたようだったが、抵抗はしなかった。一度だけ、ぎゅっと抱きしめてから、ゆっくりと体を離す。

「……あのね、姉さん」

俺は人差し指を『びっ』と立てる。

「こういうときは悪い方向に考えちゃダメだ」

俺は言い聞かせるように言う。

「大切なのは、ポジティブに考えることなんだ」

「……それって、もしかして私の真似かしら?」

姉さんがジェットコースターで俺に言ってくれた言葉だった。

「俺の大好きな人が言ってくれた言葉」  
自分で言っただけが熱くなる。

姉さんの頬まで赤くなった。

「だから、またみんんで遊びに行こうよ」

「……でも、もしもまた途中で」

姉さんの瞳の中には不安の色があった。

「そうしたら、もう一度行こう」

俺がそう言って笑いかけると、姉さんは一瞬泣きそうな顔をした。そして、その表情を俺に見せないように、俺に寄りかかった。

姉さんの額が俺の胸にそっと触れる。俺は何も言わずそのままだった。

それきりリビングは静かになった。時計の秒針の音だけが聞こえる。やがて俺の胸にあった姉さんの感触が下がっていく。

ばさりと姉さんの頭が俺の腿の上に落ちた。

「ね、姉さん!」

すうすうと小さな寝息だけが聞こえる。

安心してくれたのだろうか。

そっと、姉さんの柔らかい髪を撫でてみる。

「……少しは、役にたてたのかな」

微かに姉さんが、呟いた気がした。

——ありがとう、と。

END







## FORTUNE ARTERIAL CHARACTER FILE

オーガストの新作『FORTUNE ARTERIAL』は、現在スタッフ一丸となって鋭意製作中。今回は、キャラクターの紹介も兼ねて、脳みそホエホエによる4コママンガをお送りします。

フォーチュン アテリアル  
『FORTUNE ARTERIAL』  
主要スタッフ

◆シナリオ◆

榊原拓・内田ヒロユキ・安西秀明 ほか

◆原画◆

べっかんこう



# FORTUNE ARTERIAL

—フォーチュン アテリアル—

苦手



**「胸を張りなさい、ここでは  
私たちが主役なんだから」**

5年生で主人公の隣のクラス。学業・運動共に優れ、容姿も端麗。生徒会副会長も務めており、学院でもっとも人気のある女子学生。性格は好奇心旺盛でストリート。いつも何か面白そうなものを探して、腫を弾かせている。一度行動を始めると止めるのが難しく、むしろ止めた入った人まで巻きこむパワフルさを持つ。かといって猪突猛進なわけではなく、綿密な計画を立てる慎重な面も。実はれっきとした吸血鬼。偶然それを知ってしまった主人公は…?

**【瑛里華のプロフィール】**

6月7日生まれ ふたご座 身長159.8cm 82C/55/83 血液型:B型  
所属:生徒会(副会長) 好きなもの:甘いもの(周囲には秘密) 弱点:猫舌(これも秘密) 実は吸血鬼です(絶対秘密!)

**千堂 瑛里華** せんだう えりか



# 東儀 白

とうぎ しる

## 【白のプロフィール】

2月19日生まれ うお座 身長145.0cm 70A/51/72 血液型:A型  
 所属:生徒会(ヒラ役員) 特技:折り紙・動物と仲良くなること 好きなもの:和菓子 苦手:こわそうな人

4年生。無口な上に人見知りをする性格。色白ではかなげな容姿からは、繊細なガラス細工のような雰囲気を感じられる。生徒会財務を務める兄の征一郎に誘われて生徒会に籍を置くが、集団で行動することに慣れていないのか、放課後の活動時間も不在にすることが多い。

どんなときでも兄の言葉を最優先にする、かなりのお兄ちゃんっ子。引っ込み思案な彼女とは、会話ができるようになるまでが大変かもしれない。

## ちがうんです



「初めて、  
兄さまに秘密ができました」

おまけに達筆



「好奇心は猫をも殺す、  
という言葉を知ってる？」

主人公のクラスメート。教室では常に一人で過しているが、それを寂しがっている様子はない。たまに主人公が話しかけても、必要最低限の返事ですまされてしまう。容姿・プロポーション共に抜群。興味があることにしか労力を割かず、つまらないと思った教科はいつでも赤点ギリギリ。ただし数学系科目では驚異的な能力を発揮し、常に学年1位。総合成績トップの瑛里華にとっては目の上のタンコブ。本人はまったく気にしていないようだ。

【桐葉のプロフィール】

11月21日生まれ さそり座 身長164.4cm 88D/57/86 血液型:AB型  
所属:特になし 特技:数学・書道 好きなもの:不明 苦手:不明

紅瀬 桐葉 くぜ きりは

# 悠木 かなで

ゆうき  
かなで

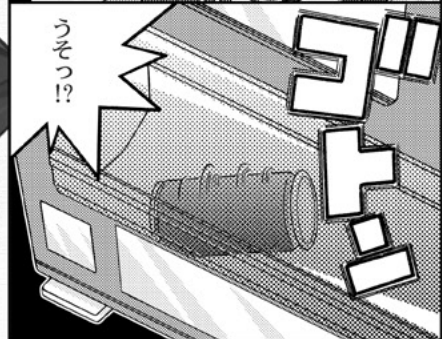
## 【かなでのプロフィール】

4月2日生まれ おひつじ座 身長151.8cm 75B/54/77 血液型:O型  
所属:学生寮寮長、その他たくさん 特技:よく食べて、よく喋って、よく眠る。 苦手:理路整然

6年生。主人公の幼なじみで、陽菜の姉。いつもハイテンションかつマイペース。いかに主人公を甘やかすか、という独自の基準に基づいて行動しており、それなりのつきあいがないと彼女の行動は予測不能。一説によると、彼女を制御できるのは妹の陽菜だけらしい。かなでも妹を溺愛しており、自分が男だったら絶対陽菜と結婚すると言いつづけている。

しゃべっていることは、字面だけ見れば一番偉そうだが、回調や振る舞いはなぜか一番年下っぽい。感情表現が豊かで、すぐ笑ったり、怒ったり、すねたりする。

## 姉さん事件です



「ヒナちゃんはわたしのヨメなので、  
キミらにはあげませーん」



処理班



「わかった。  
また、お姉ちゃんの仕業ね?」

5年生で、主人公のクラスメート。かなでの妹で主人公とは幼なじみ。とても気配り上手のしっかり者。破天荒な姉の行動にため息を吐く毎日だが、実はそれなりに楽しんでいるようだ。明るい性格と面倒見の良さで学年問わず友人が多く、友達の友達までめめれば、学生全員が知り合いなのでは? というほどの交友関係を持つ。かなでによると、これまで何人かの男子学生に告白されたことがあるらしいが、全て断っているとのこと。しかし本人は否定している。他の女の子の髪を編むのが得意。

【陽菜のプロフィール】

10月4日生まれ てんびん座 身長155.9cm 84C/56/85 血液型:A型  
所属:美化委員(かなで処理班) 好きなもの:やわらかいもの、あたたかいもの 苦手:体力勝負

悠木 陽菜 ゆうき はるな



### 『FORTUNE ARTERIAL』開発にあたり

新作ソフト『FORTUNE ARTERIAL』は、前作『夜明け前より瑠璃色な』がアニメ、コンシューマ化と展開を広がる中、合間を縫うようにしてスタッフの中で温められてきました。

慣れ親しんだ「夜明け」のキャラクター達とはこれでしばらくお別れとなり、生みの親としては大変寂しい気持ちもありますが、新作もまた、同じように皆様に愛される作品となるよう、頑張っていきたいと思えます。

まだまだ現時点では公開できない情報が潜んでいます。  
この先の、『FORTUNE ARTERIAL』の情報公開を楽しみにお待ちしております。

オーガストスタッフ一同

# FORTUNE ARTERIAL

— フォーチュン アテリアル —



榊原拓(以下榊):お互い忙しい中ですが、対談の時間です。

べっかんこう(以下べ):微妙な時期ですね。話せないことも多かったです。

榊:もちろん今回の対談は、新作「FORTUNE ARTERIAL」の開発進行状況について。

べ:やっぱりどう来ますが。

榊:シナリオは……色々と難航したりしながら、少しずつ前進している感じでしょうか。

べ:原画の方は、立ち絵の服を着せたり、イベント CG をもりもり描いたりしています。

榊:話が終わってしまいました。

べ:あいや。

榊:そうそう、3/30 に PS2 版のサントラ「Terra Passport」が発売されましたよ。

べ:録り下ろしの新ボーカル曲があるんですね。楽しい曲になりました。

榊:「未来ハレット」では、声優さん8人の合唱が実現したり。

べ:僕もリースのパートが好きです(笑)

榊:ああ、それは分かります。リースが無理矢理さやかさんあたりに歌わされてる姿が目ご浮かびました(笑)

べ:他の方もそうですが、ちゃんとキャラクターで歌っているのが嬉しいです。

榊:そうですね。さすがプロの方々って感じてした。個人的には、後奏のとこでみんながわいわい楽しそうに喋ってるのも好きです。

べ:本当に楽しそうでした。

榊:これって「夜明け前より瑠璃色な」関係の曲も一段落だと思えば、くつと来ます。

べ:さて、それじゃあ新作のキャラクターについて話しましょうか。

榊:瑠璃華はどんな子になるんでしょうか?

べ:テンションは高そうなんですけど、理不尽さは感じさせないような感じの子で。

榊:なるほど。バランスですね。

べ:ただ、今のままでテンション高めな普通の優等生ほくなつちやいそうなので、もつとはつちやいさせたい方がいかなあと。

榊:理不尽とはつちやいの差ってなんですかね。

べ:周りが楽しいかどうかだと思います。迷惑だと理不尽で、楽しいとはつちやい。

榊:確かにそうかも。じゃあ、瑠璃華はいい感じにはつちやいさせないといけませんね。

べ:色々振り回されるんですけど、それが楽しいことにはならないと。

榊:そうですね。冗聞します。

べ:では、次は白についてかな?

榊:白は、どれくらい元気でどれくらい大人しいかのさじ加減と、元気の方向性が難しいところです。

べ:人見知りをするんでしょうね。

榊:最初のうちは、多少。

べ:でも、大人しいというよりお茶目とかそんな感じでどうでしょう。可愛いわがままとが言ってみたりしてほしいです(笑)

榊:検討しておきます(笑)

べ:あと、きんづはが好き。

榊:あの好物は、設定よりも先に絵がありましたもんね。

べ:白は和菓子好きなんです。ちなみに瑠璃華は紅茶のイメージ。

榊:瑠璃華は雑誌の表紙でも紅茶持っていました。

べ:ええ。そして白はきんづばを食べてました。

榊:ティーカップは指を通して持つんじゃなくて、つまんで持つのが正解みたいですよ。あとは、ちゃんとソーサーを持つ。

べ:なるほど。でも、ソーサー持たせるとポーズ取れないんですよ。

榊:昔は、熱い紅茶をソーサーに移して冷まし、音を立ててするのがマナーだったそうです。マナーってのも何が正しいのかが分かりませんな。

べ:困ったものです。

榊:猫舌の人はいいかもかもしれませんが。

べ:設定では瑠璃華が猫舌なんですけど、白も猫舌のイメージですよ。

榊:じゃあ猫舌生徒会ですね。

べ:みんなぷーぷー言って冷ましてる感じ?

榊:あ、更にかかのると、ソーサーもティーカップの取っ手も無かつたらいいですよ。

べ:茶碗ちゃん!

榊:カップを持つ手も熱くてかかないませぬね。

# スナップ対談 第17回 べっかんこう & 榊原拓



# POSTSCRIPT - あとがき

最後までお読み頂き、ありがとうございました。

現在開発室内では、新作『FORTUNE ARTERIAL』の制作を進めています。

原画・CGであればキャラクターのデザインや色の決定であったり、シナリオであれば全体構成など、後からの作り込みでは取り返せない部分の制作は「ここまでやれば正解」という限度がありません。現在、スケジュールがタイトな中ではありますが、そういった部分の大半を練り終えたところです。

どんなに無理をしても、一日で一週間分の開発をすることはできません。これから先は、長期の計画に基づいた今日一日でやるべきことを、毎日、こつこつと積み上げていくこととなります。

ただ「神は細部に宿る」とも言います。

丁寧な仕事、隅々まで神経の行き届いた作品。そういった高みを目指して、もう何ヶ月か開発を続けていきますので、お付き合いいただければ幸いです。

それでは、今回はこの辺で。

今後とも、オーガスト／ARIAをよろしくお願い致します。

2007年春 オーガスト／ARIAスタッフ一同

## オーガストオフィシャルハンドブック 2007年春号

最新情報満載!  
オフィシャルホームページにぜひお越し下さい!

<http://august-soft.com/>

<http://aria-soft.com/>

※禁無断転載・無断複製





# FORTUNE ARTERIAL

—フォーチュン アテリアル—

オーガストオフィシャルハンドブック  
2007年春号



Copyright 2007 AUGUST All Rights Reserved.